

オーストラリア公共図書館における移民・難民サービス

鈴木 泰成

オーストラリアは移民の流入により人口を拡大させてきた移民国家である。特に第二次世界大戦後は英語を母語としない移民を大量に受け入れたため、移民に対する言語教育や定住支援が政府によって行われた。そのような移民政策は現在でも続いており、図書館は英語学習クラスの開催や学習教材の提供という形でその一端を担っている。しかしオーストラリア図書館の移民・難民へのサービスに焦点を当てた研究はほとんど存在しない。そこで本研究ではオーストラリア公共図書館が提供する移民・難民を対象としたサービスについて取り上げる。特に図書館が英語教育にどのような形で携わり、どのような活動を行っているのかについての調査を行った。

調査対象はクイーンズランド州の公共図書館、及びに図書館で英語学習クラスを実施している団体である。具体的な都市としてはゴールド・コーストやモートン・ベイを取り上げ、5 図書館・5 団体を対象とした。また研究方法は文献調査、ウェブサイト調査、メール・インタビュー調査である。文献調査とウェブサイト調査ではオーストラリアにおける移民政策や英語教育、オーストラリア公共図書館や関連団体の調査を行った。メール・インタビュー調査は図書館と、英語学習クラスを実施している団体の両方に行い、英語学習クラスの詳細を明らかにした。

クイーンズランド州は英語教育の支援を行っており、州政府のウェブサイトでは州内で実施されている英語教育コースが紹介されている。またクイーンズランド州立図書館は多文化政策の一環として、文化的・言語的に多様な人々を支援することを示す「多文化協約枠組 (Multicultural Engagement Framework)」を標榜している。

調査を実施した図書館は英語以外の言語による資料を所有しており、その種類は主に図書や新聞である。クイーンズランド州では州立図書館と各地方図書館が資料の貸与に関する協定を結んでおり、州立図書館が全体を取りまとめている。また図書館には英語学習教材が存在しており、そこには英語能力試験のための教材も含まれている。

調査の結果、英語学習クラスは図書館によって運営されているものが大半であることが判明した。外部団体との連携を行っている図書館は1館のみである。また全ての英語学習クラスは図書館が地域のニーズに対応する形式で開設されており、その時期は2006年以降である。1館を除いた全ての図書館がボランティアと共に活動しており、その重要性が明らかになった。

英語学習クラスの課題としては人数の過多や、英語能力の差に対する対応が挙げられる。またオーストラリアは、各州における教育制度や移民・難民の割合が異なるため、各州における継続的な調査が望まれる

(指導教員 吉田右子)